

## 高原地域におけるリーフレタスの品種選定

佐藤孝之・岩本保典・\*高嶋芳嗣（大分県農業技術センター九重高原野菜試験地・\*大分県白杵農業改良普及所）

SATO, T., Y. IWAMOTO and Y. TAKASHIMA : Selection of Leaf-Lettuce Cultivars in Highland of Oita Prefecture

食生活の多様化に伴って近年リーフレタスの需要は周年に及んできた。そこで夏季冷涼な高原地域における夏秋採り適品種を検討した。

### 試験方法

ちりめんちしゃ型13品種、プリーツレタス型4品種についてポリマルチ連続2作採りを行った。第1作は5月6日播種、ペーパーポット育苗し6月4日定植、7月10日収穫。第2作は7月11日播種し前作跡地にマルチはそのままとし無肥料で定植、9月8日収穫調査を行った。

### 試験結果

1) 生育は“夏ちりめん”を除いて玉レタスに比べ、高原特有の強風多雨による損傷、病害の発生は少なく、ほぼ100%の収穫株率で安定した生産が可能になった。

2) 形と葉色の濃さによって、ちりめんちしゃ型は赤色系3群、緑色系4群、プリーツレタス型は3群の類似したグループに分けられた。

3) 葉色は高原では気温の日較差が大きいため、着色程度もよく品質的にも優れていた。赤色系では“レッドファイヤー”、“レッドエース”、“サンレッド”が、緑色系では“夏ちりめん”、“試交27号”が濃い色を示した。また葉色が濃いほど縮面度も優れる傾向にあった。

4) 抽たい株の発生率は緑色系が赤色系、プリーツレタス型より高く、特に“試交27号”、“青ちりめん”、“サラダバー”が高かった。赤色系の“晩抽サニーレタス”、プリーツレタス型は抽たいが少なかった。

5) 株の生育は緑色系が大株となりやすく、なかでも“ブラックシードシムソン”が大型となった。赤色系は1株重300g前後、プリーツレタス型では“サラダリーフアカ”が小型で低収であった。収量は緑色系が約200kg/a、赤色系、プリーツレタス型が150kg/a程度と推定された。

6) 葉色、抽たい性、収量性を加味した有望品種は、赤色系では、“レッドファイヤー”、“レッドエース”、“晩抽サニーレタス”、プリーツレタス型では“サラダリーフ”、“フリルレタス”で、緑色系では適品種はなかった。

色素の発現と環境条件についての分析は今後の課題であるが、品種の選定に当たっては色彩野菜であるので1品種のみでなく、いくつかのタイプを組み合わせ、現地へ導入する必要がある。なお夏秋季の栽培では、定植後収穫まで35日内外で、在圃期間が短いためポリマルチ連続2作採りが資材、労力的にも有利と思われるので今後この点に関しても検討してゆきたい。

第1表 品種の分類と特性（7月10日）

型	葉色	品 種 名	% 抽苔率	% 発病度	株 重	調整重
ちりめんちしゃ	赤	濃 レッドファイヤー	0	0	341	251
		レッドエース	0	0	371	246
		サンレッド	0	0	307	194
	緑	濃 夏ちりめん	0	96.8	224	124
		試交27号(トキタ)	100	0	461	367
		青ちりめん	100	0	423	332
		サラダバー	100	0	400	281
	黄色	濃 ブラックシードシムソン	15	0	556	341
		淡 アーリーシムソン	0	0	380	276
		サラダリーフアカ	0	0	189	133
プリーツレタス	濃 オークリーフ	0	0	402	299	
	サラダリーフ	0	0	308	246	
	淡 フリルレタス	0	0	399	322	